

つどい

第24号

平成30年3月発行

編集・発行：土浦市女性団体連絡協議会

土浦市大和町9-1 土浦市役所本庁舎2階 土浦市男女共同参画センター内 ☎029-827-1107

女性の力が地域をつなぎ 明るい未来を創る



抱負を述べる
今高 博子会長

社会環境の変化は市行財政運営に影響を及ぼし、私たち女性団体にまで関係してきます。今年は女性団体の存在と発信力を考える一年でした。

その一つが市と共催した男女共同参画センターフェスティバル。

今年施行された「障害者差別解消法」について、自らの障がいの体験を交え、有賀先生に講演をお願いしました。

しかし、「もっと多くの市民にも知らせるべき」という声があり、参加者の少なさを痛感しました。更にフェスタⅡ祭りという市民が集う楽しいイベントも今後どのように実施していくべきか、女性センターや市民ラウンジなどの利活用の課題も残りました。

一方、総務市民委員会に所属する市議員7名と「これからの土浦」についての話し合いは初めての企画で、率直で緊張感のある意見交換会でした。

日頃、議会や行事で見る姿とはまた違った市民に寄りそう政治家の姿を見ることができ、また、女性団体がどのように土浦を熱く考えているのかも知ってもらおう良い機会でした。貴重な女性の声を発信できたと思います。

私たちは様々なボランティア活動を行い、生活者の視点から多くの情報を持つています。女性団体の特長を生かし、市政に参画していくことが重要です。

今年、女性団体は土浦市の組織改編で地区長会と同じ市民活動課に所属することになりました。

そこで、年度末には「地域社会と「男と女」と題して地域を考える講演会を開催しました。

地域での女性の活躍は、全国どこでも遅れている分野です。

防災、子供の居場所・介護など多様な地域課題が山積みです。

地区長会と合流した今こそ、地域の活性化・明るい未来のために女性をはじめ多様な人々が活躍できるように、協働していくことを願っております。

仲間が増えました

平成29年4月より「博和会」が加わり合計14団体になりました。
一緒に活動していきましょう。

「博和会ってなあに」

博和会会長 河田 輝子

博和会は、福祉・介護関係に関心のある仲間たちです。キララ祭りでハッピーの背中に「和」という文字を縫い付け踊っていた頃もありました。広く知識を求め和やかな交流を通し、絆を深め支え合うことを目的にしております。活動は、それぞれの自主性を尊重して行っております。

土浦市女性団体連絡協議会では、市議会定例会の傍聴、議会議員さんを囲んでの意見交換会や湖上セミナー、フェスティバル等と幅広く学びの機会を頂き感謝しています。特に日本女性会議「苦小牧」への参加は、多くのことを学び、これからの高齢社会へどのように臨むかのヒントも頂けました。今後支え合い、馴染みの地域で共に歩んでまいります。

男女共同参画センターフェスティバル

男女共同参画のまち土浦

～ひととひと 共に支えあう日々を～

平成 29 年 9 月 16 日 (土)

プロフィール

茨城県土浦市に生まれる
土浦第二高校卒業
愛と平和を歌うシンガー
知的障がい者施設保育士&ソロ歌手活動を始めて 24 年
東日本大震災後、歌手として再スタート
「歌はあらゆる壁を超える」をモットーに
歌で平和を!と歌い続ける



講師
美地 氏

「歌って笑って
つなごう心の和」

第一部

「笑う門には福来る」と言われますが、歌手で土浦市出身の美地さんの「歌って笑ってつなごう心の和」と題しての講演があり、笑うことは健康にも大変よく、人とのコミュニケーションも図られることを改めて感じました。まず、美地さんの独唱で「鐘の鳴る丘」をはじめ、全員での「青い山脈」等を合唱したりして楽しいひと時でした。講演では、隣の人同士で握手をしながら「ワッワッファ・・・」と声を出すことで自然に笑顔になることなど、何と立派な発想でしょう。心が洗われる思いでした。

最後は「土浦小唄」を全員で唄い、会場に踊りの輪ができるなど大変盛り上がり、笑うことで楽しさを感じつつ会場を後にしました。

鳥山在住 沼尻 誠

センターフェスティバル
に参加して



今回のイベントに参加し、男女共同参画は知ってはいたが、役職のある方々で組織されているような印象を持っていた。二部構成の内容で歌と笑いヨガ。私も同じ思いで、歌声喫茶で声を出す。健康に良い。

午後は、車いすの講師の一言一言が胸にひびき、障がい者に対してお互いさま、助け合う心が大切。人を支えるためには、学ぶこと、心のバリアフリーが大切。

一市民として、人生前向きで役に立つ生き方が大切。多くの方に伝える活動をしなければと、学ばされた一日でした。企画された方々に感謝。

心にひびく講話

下高津在住 土屋 澄子



歌い踊り楽しく参加する皆さん

第二部



講師 有賀 絵理氏

茨城大学非常勤講師
茨城県地方自治研究センター
研究員



プロフィール

自身の体験・経験を活かした研究を基に、国内外を問わず活動しており、専門は障がい福祉・地域福祉

- ・DET ファシリテーター
- ・茨城NPOセンター commons 理事他

こころのバリアフリー

神立東在住 古市 みどり

土浦市男女共同参画センターフェスティバルにて、講演会が実施されました。講師を務められた有賀絵理先生は、ご自身も障がいの者から「地域・障がい福祉」をご専門にいらっしゃいます。

「人が社会（環境）のバリアを作っていること、障がい者を差別せず、多様性を認めることで、心のバリアを取り除くことができる」という内容でした。明るく、分かりやすいお話に会場の空気もあたたかくなりました。私にとって二度目の講演でしたが、改めて感動いたしました。

バリアを取り除こう

鳥山在住 今泉 芳子

昨年度「障害者差別解消法」がスタートしたことを基に、障がいとは、差別とは、合理的配慮とは何かについて、分かりやすく、時にはユーモアを交えながら話されました。

私たちは、障がいのある人を見かけると、本人ではなく付き添っている方

に、「何かお手伝いすることはありませんか」と声をかけがちです。でもこれは、本人に直接尋ねてもらいたいことだそうです。障がい者にじかに話しかけて援助を申し出ることは、差別をしないことへの第一歩だと学びました。

心のバリアフリーの重要性についてお話いただき、周りのひとに必ず広めていきたい。障がいのある方は遠巻きに見ていましたが、今回、気持ちがよく分かりました。道路や公共物を作るときは、いろいろな障がいのある方々にも参加してもらって建設して欲しいと思いました。

参加した方のアンケート

第一部 について

- ・美地さんの温かい心のメッセージが響いて感動した。
- ・久々に土浦小唄を歌い、踊り、とても懐かしく郷土のふところのあたたかさに触れたと思います。
- ・心にしみる歌。手振り、声を出して笑う楽しいひと時でした。いつも笑顔で過ごすことが大事だと思いました。
- ・歌の内容がとてもよかった。
- ・活動を土浦でも多くできたらよいと思いました。

第二部 について

- ・ふだん見落としがちな大事な視点

今回の企画 について

- ・もつと多くの人に参加してもらえばよかったと感じた。収容人数の多い場所を選ぶとかするとよい。素晴らしい内容でもったいない気がした。
- (参加者 第一部106名)
- (参加者 第二部99名)
- ロビーでは親子連れで楽しく遊びました。



浅見氏によるバルーンアート

日本女性会議2017とまこまい

北の大地で語ろうこれからの未来の一步を

平成29年10月13日(金)～14日(日)

苦小牧で知ったり 知り合ったり

博和会 河田 輝子

雨の茨城空港から一転して快晴。メイン会場の苦小牧市民会館大ホールには、全国から二千人に及ぶ女性が集結しました。大会長である岩倉市長の「イランカラプテ」という挨拶から「男女平等参画は、時代の要請。それを身近にするための大会にしたい」との開会宣言。

書家の金澤翔子母子による特別揮毫・講演は、実際に目前で見聞きして、メディアを通してのものとは違う大きな感動がありました。続いて内閣府男女共同参画武川局長から「未来を拓く女性の活躍」という基調報告。国内外の女性に関する様々なデータから女性活躍の現状や取り組みの必要性について語られました。

女優・劇作家・演出家である渡辺えりさんは、山形県から上京後、様々な人間模様の中、支え合いながら今日まで歩んできた。これからも未来に邁進することのこと。

直立不動姿勢でなく、舞台上を躍動しながらの講演は、心に響きました。何歳になろうと夢見ること、内面からの魅力を磨くことの大切さを実感しました。

夜には、知り合った全国の人と苦小牧の名物を堪能し、交流を深めました。



会場で全国の人たちと交流を深めました

第9分科会 教育

うららフレンドハウス

飯島 真理子

子供は、未来を創る宝物！
人権や平等の大切さに気付き寛容性の
熟成や協力的な態度を育成する場として
学校教育はどうあるべきか？

4名のパネリストの経験談を通して
考える分科会でした。

- ① 性格を受け入れられた生活。常にリーダーでいたい。その気持ちを先生は、女性だからと否定せずに受け入れてくれた。
- ② 障がいがある我が子を持つ母親。出産後「おめでとう」が聞けず心を閉ざすが、障がいがある子を持つ親への支援活動に参加。



会場前で

次回(35回)は

日時：H30年10月12日(金)～
10月14日(日)

テーマ：「日本女性会議in金沢」

たたえよう今日までの道
彩ろう未知なる明日

場所：石川県金沢市

- ③ 男だから女だからとの固定概念をなくし自分の道を進む。不登校の時、自分の好きな料理の話を担任の先生がしてくれた。家庭科を専攻し教諭となる。
 - ④ 自分はゲイである。ダイバーシティコーディネーターとして多様な特性や価値観の違いを知る。男らしさ女らしさを強調しないで。「彼女はいますか？」ではなく「パートナーがいますか？」と聞いて欲しい。
- 以上4名の話から「子どもを知る」というキーワードがあげられた。子どもを知ることはありのままの姿を受け入れること。育ちゆく子どもが豊かな心を持ち、方向性を自ら選べる社会を目指すために啓発活動の大切さを思う研修でした。

研修部会活動報告

部長 峯村 きみ子

第1回研修

平成29年11月8日39名の参加で新図書館の見学を実施。オープンに向け沢山のボランティアが準備に追われており陰の力の大きさを実感しました。そして光を取り込む開放的な造りに感嘆。自動書庫や自動貸し出し機の導入、閲覧席、学習室、キッズコーナーの充実と素晴らしい館内でした。



市立図書館4階屋上ガーデンにて

第2回研修

平成30年1月23日40名の参加で男女共同参画を考える国内最大級のイベント日本女性会議と平和使節団として広島平和記念式典に参加した方の報告会を実施しました。

イベントや式典の様子をスライドを交えながらの工夫ある報告でした。また土女連から市民会館自主文化運営委員として出席している田村尚子さんにも委員会の様子等を報告いただきました。

アルカス土浦の見学会に参加して

研修部 鈴木 和江

工事が進みアルカス土浦の外装がだんだんと見えてきて、駅前を通るのが楽しみになっていました。大貫副館長の案内で、一階の広いギャラリーの説明があり、クロード・モネの絵画「ポール・リッドモアの洞窟」他、郷土ゆかりの方の作品なども展示されるとのことでした。クロード・モネの「睡蓮」の絵画は有名で見ましたが、またちがう絵を鑑賞することができそうで楽しみです。内部の配置は、各階とも来館者の

使いやすい椅子やテーブル等にも工夫されています。2階キッズコーナーも子供達に遊び心を誘い出すように造られ、棚や机にもまるみを付けてあります。

駅のホームを見下ろすラウンジのゆったりとした椅子に座り一息すると特急が通過するのが見えました。音も聞こえず気分も落ち着いてとつても良い雰囲気です。来館者の使い良い様に配慮されグランドオープンが楽しみです。

★アルカス土浦（土浦駅前にできた市民ギャラリー・市立図書館等の複合施設）

総務部会活動報告

部長 田村 尚子

新体制で2年目を迎えました。昨年度の「土浦を創ろう・語ろう！」と題し、第1期市議会議員の皆様を囲んでのワークショップの成功に自信を持って、本年度の活動計画立案・決定をしました。

- ①年間6回の市議会傍聴受付
- ②市議会総務市民委員会の方々を囲んでのワークショップ

このワークショップは我々の身近な問題に対応する委員会でもあり、活発に質疑応答が繰り返されました。1グ

ループが6〜7人という少人数であった事もよかったです。

参加された方々から、直接に議員さんの声を聞く事ができ大変有意義だったとの感想を頂き、部員一同安堵しました。

後日、ワークショップの内容を報告書にまとめ、市議会に提出しました。

広報部会活動報告

部長 田中 治江

土女連の機構や動きを正しく、読みやすく伝えたいと、広報部8名は、それぞれ得意分野を発揮して、8ページの冊子に、心を込めています。

土女連の役員会に参加することで、自主・共催・協力の事業などの方向性が明確になり、割り付けや文章表現等の判断が楽になりました。

行事を取材し写真を取り入れて記事にすることもありますが、文章を依頼し、それをいただく

ことで成り立っている広報部にとって、素早く書いて返してください。本当にありがたい、編集を進めることができました。



学ぼうシリーズⅦ

平成30年2月15日(木)

今年度の学ぼうシリーズは、牛久市・阿見町との三市町合同交流会を兼ねて実施されました。はじめに牛久市・阿見町・土浦市の順に女性団体の活動報告が行われ、それらを踏まえて長谷川幸介氏の講演が行われました。

○牛久市の活動

市と市民の連携と協働による「うしく男女フオーラム」を毎年開催している。中高校生の参加による吹奏楽や高校生による宣言文の唱和、講演会などを実施。毎年数百人の市民参加を得て、男女共同参画社会推進への意識啓発を行っている。

○阿見町の活動

二つの任意団体と、18の自治会で組織した女性会があり、男女共同参画事業の進捗状況について行政から聞き取りを行うほか、学習会や町議会議員との懇談会など様々な活動を行っている。

○土浦市の活動

土浦市女性団体連絡協議会を組織し、現在14団体が所属している。自主事業として、市議会議員との意見交換会や時宜を得たテーマの研修会、年一回の「つどい」を発行している。共催事業としてセミナーフェスティバルを行政と開催し、日本女性会議への派遣も行っている。

講演会

地域社会と「男と女」

〜地域で幸せをつくるために〜

講師

茨城県生涯学習・社会教育研究会

会長

長谷川 幸介氏



プロフィール

茨城大学人文学部
経済学科卒業

研究分野

教育法学
地域社会論
生涯学習論

著書「町内会物語」等

一、人の支えあいについて

人はいつの世も一本の綱の上で綱渡りをしていて、落ちた時の受け皿が綱の下に張られている。それをセーフティネットという。その綱・ネットが、時間や地域や仲間意識の変化とともに、どんどん小さくなってきている。それは四つの縁の衰退に起因している。四つの縁とは職縁・血縁・地縁・団縁で、ネットの目はさらにほころびをみせている。それを懸命につくろっている公的なものが市町村で、地域やボランティアもさらに支えている。ネットは、多層で重なり合い、活かしあっている。

二、男と女について

長い間(特に戦後)男と女は生産性を上げるために、男は社会、女はそれを支えるサプ的な立場という枠で過ごしてきた。男女はそもそも脳の構造が違っていて、男は競争脳、女は共感脳といい、これはチンプンジーの実験でも実証されている。脳を活かしあうなら今日は共感脳を使う時代になっている。それが社会の原理を問い直す、男女共同参画なのであろう。

講演会に参加して

六好会 今泉 芳子

高度成長期に必死に生きてきた私たちが過ごした時代の意味と男女の違いを、人類の進化や時代の流れに沿って、分かりやすく時にはユーモアを交えながらの講演会でした。

社会は、民主化・都市化・高齢化・無縁化・AI化で急速に変化し、幸せとは何かを真剣に問われる時代になってきている。氏は、「走る」という自作の詩を朗読し、最終行には「自分の明日を取り戻すために、もうひと踏ん張り、走ってみようか。」と結んでいる。

この社会を作るために、責任感と義務感で夢中で突っ走ってきた一人として、私たちへのゆとりあるメッセージなのだと思いました。

会場の皆さんの声

- 語りが非常に楽しく、笑いが絶えない講演だった。
- 板書が緻密でよく整理されていて見て記憶に刻まれた。
- 内容の根拠がよく理解できた。

その他の活動報告

広島平和記念式典に参加して

JA土浦女性部 岡田 和子

今回、式典に参加することで「ヒロシマ」の出来事を被爆者と共有し、深い悲しみとして受け止めることができ

た。
72年前の地獄の苦しみから、広島の人々がいかに復興へと努力してきたか街の様相から理解できた。原爆ドームや資料館には溶けたガラスや炭化した缶詰など惨状を伝えるものが展示され、特に被爆直後の人々を映した写真は、直視できない程の凄惨さであった。市長の平和宣言は、現在の世界情勢から鑑みて例年以上に痛切な叫びとして胸に突き刺さるものであった。

私は、被爆国日本の一国民として「ヒロシマ」を風化させず世界に核廃絶と世界平和の構築を訴え続ける責務を痛感した。



原爆ドーム

「土浦市老人福祉計画及び介護保険事業計画推進会議」報告

うららフレンドハウス

細野 伸子

推進会議は議委員17名で、大学関係者、市議、医師会、歯科医師会、地区長、民生委員、障がい児(者)、父母会、高齢者クラブ、ボランティア団体、医療従事者、ケアマネージャー、各団体の代表者及び副市長で構成されています。

本会議は第7次土浦市老人福祉計画及び介護保険事業の計画策定について話し合います。議題の主なものは次の通りです。

第1回は、平成28年度の各種事業の実績報告及び介護保険状況について
第2回は、骨子案及び計画の概要・高齢者の現状・日常生活圏域の状況について

第3回は、計画の基本的な考え方、高齢者施策、介護保険事業・基盤整備について

第4回は、計画の素案、パブリックコメントの実施(案)について、と話し合いを行いました。

老人福祉最前線で活躍されている皆

さんとの話し合いは、得るところが大変多く大いに刺激を受けました。これからも土浦市の老人福祉計画に関心をもち続けていきたいと思えます。

土浦市中心市街地活性化協議会

暮らしの会 山根 幸美

土浦を元気に！の思いから協議会に参加しています。5月に総会、翌年2月に追加事業の協議が土浦商工会議所でありました。

土浦市は、平成26年度に認定された5年間の中心市街地活性化基本計画に基づき、将来像「歴史が息づき、人々が集う、魅力ある湖畔のまち」に向け78事業を実施して来ており、まちなか定住補助や開業支援も始まっています。27年の駅前新庁舎に続いて、29年秋の新図書館開館で、賑わいは増しているようです。4指標(歩行者、観光施設利用者、居住人口、空き店舗数)を定めて取り組みを進めており、人口と店舗が課題です。

2月の協議会では、桜町三丁目横丁に民間で一つの建物に多種飲食店を誘致する事業が、国の補助を受ける追加事業として論議承認されました。

土浦の計画には霞ヶ浦が入っており、サイクリングロードへの期待も高まっています。土浦駅に3月開業のサイクリング施設プレイアトレの説明も受けました。10月には世界湖沼会議関連サテライト事業も行われます。

第27回かすみがうらマラソン 兼国際盲人マラソンに協力

平成29年4月16日(日)



土女連のバナナ配布

かすみがうらマラソン大会では、例年バナナ配布のボランティア活動を行っています。今年は、各団体より合計33名の方が参加しました。

ランナーとのふれあいで、わたし達も元気をいただいています。

霞ヶ浦湖上セミナー

暮らしの会 真山 淑枝

本年10月に茨城県で開催される第17回世界湖沼会議に向けて、土浦市女性団体連絡協議会のメンバーは、霞ヶ浦の現状について学習会を実施しました。主催は、長い間、水質浄化の活動を展開してきた当会に所属する「暮らしの会」です。



2017.11.13 女性湖上セミナー

代表として県の企画委員をされた堀越昭さんの話を聞きました。

当時、県で初めての会議ということで、研究者主体の学術的な会議になる

船上から、湖岸の様子・

湖水の変化等を観察し、また船上で水質の検査を行い、汚れの数値を確認しました。その後、平成7年第6回世界湖沼会議で市民

のではと危惧した堀越さんは、市民参加あってこそ、霞ヶ浦浄化が実現するとの信念のもと、多くの市民団体や民間の機関に声をかけ市民の力を結集し「世界湖沼会議市民の会」を結成しました。短い期間ながら活動を展開、時には県とも連携しながら、国際的な会議を裏のあるものにする事ができ、なかでも特に女性のパワーに圧倒され（暮らしの会もそのひとつ）実力を実感させられたと、話されていました。なお、その組織は名称を変え、今も活動を継続しています。

—研修を終えて—
現状はまだまだ厳しい状況の霞ヶ浦。一人ひとりが暮らしと水について関心を高めていきましょう。

第17回世界湖沼会議
(いばらき霞ヶ浦2018)

一人と湖沼の共生

皆で参加しましょう!!

会期/10月15日(月)~19日(金)

参加には登録料がかかります。
県民は1日 1,000円
詳細はお問い合わせください。

平成29年度
土浦市女性団体連絡協議会事業報告

【自主事業】

- ・総会 5/16
- ・学ぼうシリーズⅦ 2/15
- ・三市町合同交流会2/15
- ・役員会 9回

総務部会

- ・会議 6回
- ・市議会定例議会傍聴受付 8回
- ・市議会議員との意見交換会 (総務市民委員会) 11/8

研修部会

- ・会議 4回
- ・「アルカス土浦」見学会11/8
- ・「日本女性会議2017とまこまい」及び「広島平和記念式典」報告会 1/23

広報部会

- ・つどい編集会議 9回

【共催事業】

- ・男女共同参画センターフェスティバル 9/16

【協力事業】

- ・第27回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン 4/16
- ・広島平和記念式典 8/5、8/7
- ・人権と平和のつどい 10/9
- ・日本女性会議2017とまこまい 10/13、10/14
- ・霞ヶ浦湖上セミナー 11/13

後編集記

今年はピョンチャン五輪・パラリンピックが開催され、選手のはつらつとしたプレーに元気をもらいました。

つどい24号からは、全ページがカラーとなり、皆様に見える紙面をお届けいたします。ご寄稿くださった皆様ありがとうございました。紙面の都合上一部内容を割愛させていただきます。

これからもより良い紙面づくりに努めてまいりますので、お気づきの点や感想などありましたらお寄せください。



編集委員

- | | |
|--------|--------|
| 田中 治江 | 神立 史子 |
| 長谷川 初江 | 稲見 清美 |
| 今泉 芳子 | 井倉 洋子 |
| 加茂 美那子 | 青山 かつい |